

「みことばに対する4つの聞き方」

マルコ4：1-20

平吹光太 24.1.14

本日はイエス様が種蒔きのたとえを用いて実を結ぶ秘訣を語られている箇所になります。本日の説教題「みことばに対する4つの聞き方」とさせて頂いたように聞く私たちの心の在り方について、共に考え、主の御心を求めていきたいと願います。

I. イエスは多くの事をたとえによって教えられた

「イエスは、再び湖のほとりで教え始められた。非常に多くの群衆がみもとに集まったので、イエスは湖で、舟に乗って腰を下ろされた。群衆はみな、湖の近くの陸地にいた。イエスは、多くのことをたとえによって教えられた。その教えの中でこう言われた。」(1~2)

この時、イエス様が湖のほとりにおられるとそこにも多くの人が集まった。イエス様は今までもたとえによって教えられたが、この時も群衆に種蒔きのたとえを用いて教えられた。たとえ話は本来、分かりにくい事を分かりやすく説明するものであるが、「種蒔きのたとえ」だけを聞いても、多くの人達は何をイエス様が言われないのかが分からなかった。イエス様がたとえ話をお語りになった後、弟子達が質問をしてイエス様は次のように答えられる。

「さて、イエスだけになったとき、イエスの周りにいた人たちが、十二人とともに、これらのたとえのことを尋ねた。そこで、イエスは言われた。「あなたがたには神の国の奥義が与えられていますが、外の人たちには、すべてがたとえで語られるのです。それはこうあるからです。『彼らは、見るには見るが知ることはなく、聞くには聞くが悟ることはない。彼らが立ち返って赦されることのないように。』」そして、彼らにこう言われた。『このたとえが分からないのですか。そんなことで、どうしてすべてのたとえが理解できるのでしょうか。』(10-13)

イエス様があえて神の国の奥義(神の支配)をたとえで語られた理由は人々が悟るため。私たちも聖書を読み、メッセージを聞いても何も入ってこない時はないか?本や人から神は愛であり素晴らしいお方と聞いて頭では何となく分かるが悟れないことはないか?私たちはその過程でもがく。けれどもまず聞くことから始まり、様々なプロセス(信仰と現実の狭間でもがき、真剣に神と向き合う)の中で悟るようにされていく。そのためイエス様は「聞く耳のある者は聞きなさい。(同様の表現は、福音書と黙示録に15回程出てくる)」(9)とたとえの後に言われ、語られたことばを悟るように人々と弟子達に語られた。

II. 4つの地、4つの聞き方

「『よく聞きなさい。種を蒔く人が種蒔きに出かけた。蒔いていると、ある種が道端に落ちた。すると、鳥が来て食べてしまった。また、別の種は土の薄い岩地に落ちた。土が深くなかったのですぐに芽を出したが、日が昇るとしおれ、根づかずに枯れてしまった。また、別の種は茨の中に落ちた。すると、茨が伸びてふさいでしまったので、実を結ばなかった。また、別の種は良い地に落ちた。すると芽生え、育って実を結び、三十倍、六十倍、百倍になった。』」(3-8)

イエス様はたとえで4種類の土地に落ちた種の話がされている。現代は種を蒔く時、土地を耕してから種を適量蒔くのが一般的です。しかし当時のパレスチナでは、耕されていない土地に種を

所構わず先に蒔き、時間をおいて芽が出たものを育てるというやり方をしていた。そのような蒔き方のため、それぞれの種は道端、岩地、茨の中、良い地に落ちた。けれども実を結んだのは良い地に落ちた種であるというたとえ。ある人々はこのたとえを聞いても意味がわからず、また自分たちにとって期待する話ではなかったためイエス様の元から離れていった。イエス様はご自身の元に残った人達（聞く耳のある者）と弟子達にその意味を 14 節以降で解き明かされます。まず、イエス様は種を何にたとえているのか？「種蒔く人は、みことばを蒔くのです。」(14) つまり種とはみことば。イエス様はみことばに命があり、どれ程豊かな実を結ばせる力があるかを 8 節で語っている。種には命を出す力があり、神はそのように造られている。そしてイエス様はみことばの種が蒔かれる場所は私たち一人ひとりの内であり、蒔かれる場所によって種の成長が異なることを解き明かされます。

- ①道端の地：「道端に蒔かれたものとは、こういう人たちのことです。みことばが蒔かれて彼らが聞くと、すぐにサタンが来て、彼らに蒔かれたみことばを取り去ります。」(15) 道端に蒔かれたものとは、地盤が固まっていてみことばを受け入れる余地が無い状態。つまり自分の経験、考え、価値観等で心が固まっており、神のことばに全く聞く耳を向けない無関心な人。神の真理を聞いても悟らず、罪を悔い改めることをせず、イエス様を受け入れない人。そういう人の心に蒔かれたみことばは悪魔が来て奪い取っていく。それが道端の状態。みことばを聞いている時、神が今私に語っておられるという心構えで聞くことが大切。

はじめから神の存在を否定したり、自分とみことばは関係ないという態度では何も聞こえてこない。

- ②岩地：「岩地に蒔かれたものとは、こういう人たちのことです。みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れますが、自分の中に根がなく、しばらく続くだけです。後で、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。」(16-17) 岩地に蒔かれたものとは、みことばを受け取るが根が張っていないために、強い日照りや強風等の天候（困難や試練）の影響によって枯れたり吹き飛ばされてしまう。つまりイエス様を信じることに伴う迫害や困難が起こるとすぐにイエス様の元から逃げ出し、みことばに立ち続けられないのが岩地の状態の人。イエス様を主と信じるということはただ救いを受けて終わりではなく、自分の十字架（主の愛と救いの恵みに感謝して主のための苦しみを受ける覚悟）を負い、イエス様に従っていく事を覚えて歩むことが大切。

- ③茨の地：「もう一つの、茨の中に蒔かれたものとは、こういう人たちのことです。みことばを聞いたのに、この世の思い煩いや、富の惑わし、そのほかいろいろな欲望が入り込んでみことばをふさぐので、実を結ぶことができません。」(18-19) 茨の中に蒔かれたものとは、茨の中に落ちても種は芽を出し育てようとするが、茨（この世の思い煩い、富の惑わし、いろいろな欲望）の勢いが強いので成長する場所を塞がれてしまう。この世の思い煩いとは心配事で、全ての事を益と変えてくださるといふみことばを私たちの内に蒔かれているが経済、病、将来のことで大きな問題が起こってくると神のことばを信頼するよりも心配事に心を奪われ、芽を出しても成長で

きないのが茨の状態。また富の惑わしやこの世の誘惑は神が私たちに与えてくださる祝福よりも、この世の楽しみが一番になり、盲目の状態。お金は私たちが生きる上での手段ではあるが人生の目的ではない。私たちの生きる目的は「神の栄光をあらわし、神を永遠に喜ぶ」こと。そのため、与えられている富に関して、神の国とその義とをまず第一にし、神に十分の一をお捧げし、残りの与えられているもので感謝して生活をするのが大切。

④良い地：「良い地に蒔かれたものとは、みことばを聞いて受け入れ、三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶ人たちのことです。」(20) 良い地に蒔かれたものとは、1.みことばを聞いて神が自分に語られていることとして受け入れていくこと。聞いて受け入れていくとは自分の価値観や考えで見ることではなく、神が言われているみことばを素直に受け取ること。2.イエス様を主とし、自分の十字架を負いイエス様に従う。3.富の惑わし、この世の誘惑に警戒し、金銭の面においても主を第一として生きること。また、経済、病、将来のことで問題が起こっても全てを益と変えてくださる主を信頼する。このように心がけて生きるものが三十倍、六十倍、百倍の実を結び、主に栄光をお返しすることができる。

けれども私たちはどうか？良い地？正直、岩地、茨、時には道端の時もあるのではないか？みことばはこう言っているけど、でも現実はそのことばを自分に当てはめたくない時があるのが私たちではないか？イエス様は弟子達が完全に良い地で十分にみことばを受け取り、信じきれる訳ではない事を分かった上で語ったはず。弟子達の中にも道端、岩地、茨の中のものがいたはず。しかし当時のパレスチナの種蒔きは良い地にだけ種を蒔いたのではなく、石や茨があっても種を蒔き、芽が出た後に石や雑草等を取り除いて土地をきれいにしていたように、全ての場所が良い地となり、実を結ぶ可能性を神はお与えくださっているという励ましを受ける。「見よ、わたしは新しいことを行う。今、それが芽生えている。あなたがたは、それを知らないのか。必ず、わたしは荒野に道を、荒れ地に川を設ける。」(イザヤ 43:19) どんな地も豊かな地に変えてくださるのは主。信じる者に与えられるご聖霊によって、みことばに素直に聞き従う心を与え、私たちの内にある石や茨を取り除いてくださる。石や茨を取り除いていくということは試練。けれども試練は聖書の中に悪いものとは一言も書いていない。むしろ試練を耐え忍ぶ者は良い実を結ぶことがみことばに記されている。「苦難さえも喜んでいきます。それは、苦難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。この希望は失望に終わることがありません。」(ローマ 5:3-5)「試練に耐える人は幸いです。耐え抜いた人は、神を愛する者たちに約束された、いのちの冠を受けるからです。(ヤコブ 1:12) 私たちがどんな地(状態)であっても、神は試練によって私たちの心の頑なさを打ち砕き、私たちを良い地(神のみことばに信頼し委ねるもの)に変えてくださる。良い地とはどんなに逆境と思える状況や状態、また自分の思いがどうであっても私たちがみことばを聞いて受け入れ主に信頼し委ねていくこと。それが良い地として種を受け取っていくこと。だから私たちは毎日主のみことばに聞き信頼し委ねていく者でありたい。そうすれば、必ず豊かな実、祝福が与えられ、また私たちの周りの人たちにも豊かな祝福、救いの実が与えられていく。この希望を常に持ち続けて歩む私たちでありたい。